

## 薬局事務スタッフ主導による「地域住民との交流・情報発信」

河野亜由美 そうごう薬局八潮店

【目的】近年、国民のセルフメディケーションが求められ、医療や介護など様々な面でプライマリーケア、QOLの向上が重要視されている。そこで今回、地域住民の方の健康寿命への貢献を大きな目的とし、事務スタッフ主導による患者参加型の講習会を企画・実施したので報告する。

【方法】2017年11月～2018年5月の間、地域住民を対象に、講習会を5店舗で計5回実施した。地域住民に合わせ内容を多様化するため、市の出前講座や地域包括支援センターの制度を利用し、管理栄養士や理学療法士、市役所福祉係職員と協力し「小児の薬剤服用、薬への理解、生活習慣病予防、健康体操、認知症サポーター講座」の講習会を実施した。参加者へアンケートを行い、当薬局利用頻度、継続開催の希望有無などを調査した。

【結果】総来場者数56名の内訳は20代1名、30～40代12名、50～60代8名、70歳以上12名、未回答23名であった。「普段当薬局を利用していない」と約3割（29回答中8名）が回答し、薬局利用者の家族ら周辺の人も多く参加していた。全員が「今後も参加したい」と回答。参加者からは「足をダメにして人生終わりだと思ったが、体操をしてもう一度頑張ろうと思った。」「病気に別々に注意することを詳しく教えて欲しい。」「普段は気兼ねして聞けないことも聞くことができた。」など様々な感想が寄せられた。

【考察】参加者の健康に関する意欲・関心は高く、具体的な情報や知識を求めていることがわかった。他職種と連携したことで、多様な内容の情報発信ができたこと、講習会をきっかけに、普段当薬局を利用していない人に対しても啓発できたことは意義があったと考える。今後も、地域住民が気軽に立ち寄ることのできる地域の相談窓口として、薬局をもっと活用してもらえるようになる為に、事務スタッフも薬局の顔として、地域住民との交流や情報発信に主体的に関わっていきたいと考える。